

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330

http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ6月-

～「カブト虫の飼育教室」～

6月のウッドランドクラブは、園内の水生生物や昆虫などの小さな生き物を観察しました。子供たちの参加が多いこのイベントの目玉は、何といても「カブト虫」の幼虫探しです。土を掘っていくと幼虫が姿をあらわし、そのたびに、大きな歓声が上がりました。お父さん、お母さんも童心に帰って子供と一緒に楽しみました。花山で捕まえたカブト虫が、無事に育つことを願っています。また来年も参加して下さいね!!



＜カブト虫のお勉強!＞

科学館案内② -ツキノワグマ-

～名前は「タロー」です。～

館内の奥まった一角に棲みついています……。リニューアル以前からおりましたが、毛並みを整え、歯もきれいにしてパワーアップしました。以前は、金太郎の気分で子供たちが背中に乗って遊んでましたが、野生動物保護から乗れないよう展示場所を工夫しました。この辺りでは普通にいるクマですが、毛などに触れてじっくりと見てはいかがでしょうか……。



＜ツキノワグマ・「タロー」＞

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)の
大友さんのコーナーです

“子育て順調”

- ①オオルリのメスがエサをくわえています。近くに巣があるようです。
- ②シジュウカラの幼鳥です。ネクタイが細くまばらです。光る根がかわいいですね。
- ③ヒガラです。左が親鳥、右の2羽が幼鳥です。懸命に追いかけて餌をねだります。②と一緒に移動していました。(大友)



＜①オオルリのメス＞



＜②シジュウカラ幼鳥＞



＜③ヒガラの親子＞

生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー

森の掃除屋

夏になるとシテムシが目につく。オオヒラタシテムシの幼虫は、真っ黒で動きが早い。「風の谷ナウシカ」に出てくる王蟲(オーム)にそっくりで三葉虫にも見える奇怪な姿だ。成虫になるとゴキブリ似の姿になる。

名前は「死出虫」「埋葬虫」で、生き物の死骸や糞を食べることからきている。見た目、キモイ虫だが、森の掃除屋さんでこの虫がいないとそこいら中に腐乱死体があふれることになる。地味ながらありがたい虫に感謝したい。(は)



＜①幼虫＞



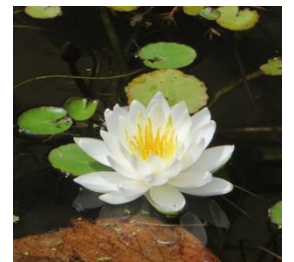
＜②成虫＞

まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

～モネが愛した花・・・ヒツジグサ(スイレン科)～

初夏から夏にかけて湿性植物園では「ヒツジグサ」が咲きます。「睡蓮(スイレン)」とも呼ばれますが、「睡蓮」は、花が日中開いて夕刻になると閉じることから、「睡眠する蓮(ハス)」という意味で名が付いたようです。ハスもスイレンも花が似ていて、仏教ではお釈迦様の心を象徴する特別な花とされています。さて、「ヒツジグサ」は和名で、漢字で「未草」と書きます。「未(ヒツジ)」とは、「未の刻」を意味していて、午後2時頃のことです。つまり、午後2時頃に咲く花ということですが、実際は午前中から咲いています。

園内を案内している時、この花の名を聞かれることがあります。その時は決まって「モネの有名な絵の花!!」と答えると、「睡蓮だ!!」と気付いていただけます。フランス印象派の巨匠であるモネは、自分の家の池に「睡蓮」を植え、橋をかけ日本風の庭を楽しみました。モネの「睡蓮」では、池に漂う光と影が見事に描かれていますが、来園の折に、モネになった気分で「ヒツジグサ」を觀賞されてはいかがでしょうか。(千葉)



＜ヒツジグサ＞

科学館情報

外部委員会を設置

森林科学館では、利用者の声を施設運営に生かすため、行政担当者、近隣住民、利用者代表からなる外部委員会を設置しました。6月20日に今年度最初の外部委員会(「こもれびの森評議委員会」)を開催し、委員の皆様より貴重なご意見、ご要望を伺うことができました。県の施設ですが、管理運営はNPO法人「宮城県森林インストラクター協会」が行っています。これからも地域に親しまれる施設を目指してまいりますので、皆様の忌憚のないご意見をお寄せ願います。